

~~“思い出すままに” (2)~~

~~小倉金之助先生~~

~~1962. 2. 9~~

① 6504



□ 1902年(明治35年)郷里から出て ~~参りました~~ ^{きた私が} 東京物理

学校に入 ^{たとき} ~~共~~ 学校には ^{図書館} 図書閲覧室のよう ~~な~~ ^参

考書を読ませる ~~研~~ ^が 設備 ~~も~~ なか ^た ので ^い んな本が学

校にあるのか ^あ ~~ら~~ ^と わかりませんでした ^あ ~~れ~~ ^で ~~吉~~

~~本屋でも探そうと思つて参りますと~~ 当時 ~~共~~ ^も 神保町から

九段~~×~~ 下まで ^{いは} ~~直線~~ 古本屋が ~~非常に多く~~ 並んでいたの

ですか [△] 一軒一軒のぞいてみると [△] とかく程度の低い受

験 [△] 参考書 ^{ばかりが目につく} ~~はたいなものが多~~ ^{仕方がない} ので [△] これでは ~~だめ~~ だと

思い ~~は~~ [△] ~~まお~~ 下宿 ^に ~~→~~ 近いお茶の水 ^の ~~に~~ 教育博物

館 ~~と~~ ~~いうのが~~ ~~ある~~ ~~ところ~~ ~~を~~ ~~そ~~ ~~こ~~ ~~に~~ ~~参~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ [△] ~~今~~ ~~の~~ ~~聖~~ ~~堂~~
~~行~~ ~~っ~~ ~~て~~ ~~み~~

野の図書館に参りましたが、^{ですが}~~上野のほうは~~^{これは}田舎から出

てきた~~人~~^{ばかりの私}にと^は、~~驚~~^{語句にさか}すばらしい図書館で~~あ~~

~~ま~~したけれど~~い~~^{ここ}、~~短~~時間の~~中~~^{うち}に何かま^とま^つ

た結果でも得ようというの^は、~~上野ではと~~無理なこと

~~、これは非常に時間がかかると、私にはたまたま~~と気

が^いついて、^{上野}も^行間^もを^なさ^すやめてしま^した^が、

上野^の図書館^について^は、^一つの^思い^出が^ある^ので^す、

^{DD} ~~図~~を出^す、^一年^半ほ^ど、^後の^こと^で、^{DD} 物理^学校^で、^桑木^或雄^の先生^の「^定常^波に^ついて[」]、^とい^う題^目の^物理^のホ^ー

ト^を出^さし^て、^なら^ば、^なら^ぬので、^参考^書を^読む^ため^に、^上

野^の先生^の「^定常^波に^ついて[」]、^とい^う題^目の^物理^のホ^ー

野 ~~図書館~~ に参り ~~ました~~ カードも引いて 二 三 の英 ~~文~~

音響学の書物を探したところ ~~で~~ ロード レー レー の 音

響学 ^{とい} 二 卷の ~~大冊~~ ^{基本} が ^{まし} 出てきた よ う や く 微分の 入 り 口 ~~が~~

~~を~~ 学んだ 私 は む ず か し そ う な 微分方程式が何百 ~~冊~~ と

字しに並んで い る こ の 大 ~~基本~~ を な が め て た だ 呆然と
冊

するばかりで ~~あつた~~ した [△] ところが [△] 幸いにしてこの ^り ~~＝~~

ポートが録になりまして [△] 私は桑木先生からその後知遇

得

を ~~与えられる~~ ことにな [△] たのです [△] └──┘

● 即全角20マス中央に

口 ^エ ~~そ~~ で [△] ~~録~~ 上野の目録やカードなども調べ ^{てみて} ~~ま~~ [△]

~~は~~、日本の書物ではまじめに読むべき ~~は~~ [△] 数学や

当時の私にと [△] [△]

化^いの^は本^{のだ} ~~は~~ ~~非~~ ~~常~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~は~~ ~~な~~ ~~ら~~ ~~ず~~ ~~は~~ ~~な~~ ~~ら~~ ~~ず~~ 外国の本にはいいの^か

た^たさん

あ^あても^も ~~私~~ ~~は~~ ~~昔~~ ~~と~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~わ~~ ~~かり ~~そ~~ ~~う~~ ~~も~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~本~~ ~~が~~ ~~あ~~~~

まりにも多いのだ^だと^という結論に達したのです^す。それで^で、

それから後は^は、私は英語の原書^でなるべく安く^く、しかも

やさしいような本から^らだん^だだん^だ買い集める^ることに^に ~~きめ~~ ~~た~~ ~~と~~ ~~決~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~

ました。

○ ちょうどそのころ、田村書店という本屋から翻刻本も

出しておりました。~~それ~~ 1898年から1901年^{まで}の4年

数学書

間に~~それ~~9種の英文~~の本~~を出した。~~それ~~それは英

米で~~それ~~有名な価値のある数学書の中^{から}、~~それ~~一般的

で、あまり特^殊な専門書でない、~~よきものを~~を選んで

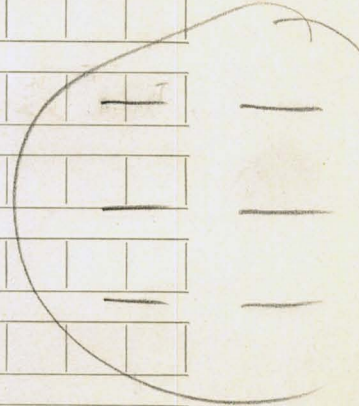
次の9つ

たので、~~名前をあげます~~

□ クリスタル △ 代^学数 I、II × D D

○ ホアソン、平面三角法

サーモン △ 円錐曲線 × D D



トドハンター、微分学 ×

トドハンター、積分学 × 〇〇

ジョンソン、微分方程式 ×

フォーサイス、微分方程式 × 〇〇

ネッター、置換論 (ドイツ ~~語~~^書の英訳)

ロ ハルナク 微分積分学 (ドイツ^書の英訳)

← これだけのものがありました ~~私は~~ クリスタルの「代
でちがが 私 は

数学 中1巻を見たとき ~~これは代数の宝蔵~~ ^{だ!}

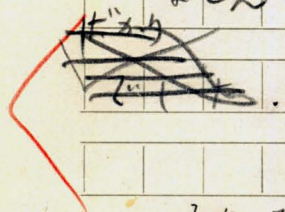
と思 たほいでした トドハンターの微分学 ^は ~~あ~~

りふ小た教科書 ^{積分学}
~~れはやさしいもの~~ でした が、物理学校 ~~を~~ だいふ

参考になりました。 ~~ジョ~~ンソンの微分方程式もやさし

かっただのですが、 ~~ほかは~~ ~~骨の折れ~~ ~~より~~ ~~もの~~ ~~は~~ ~~全然~~ ~~読~~ ~~め~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~ハ~~ ~~ル~~ ~~ナ~~ ~~ク~~ ~~と~~ ~~ネ~~ ~~ッ~~ ~~ト~~ ~~ー~~ ~~は~~ ~~全~~ ~~然~~ ~~読~~ ~~め~~ ~~る~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~

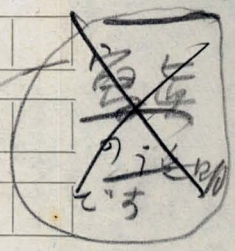
ませんでした。



もちろん、 ~~田村書店~~ 田村書店のほかにも ~~翻刻書~~ 翻刻書があります。

そういう ~~田村書店~~ ^{もの} 書は 実際日本では教科書にする目的で翻刻さ

注(1)



れたものと思われまゝ。私が求めたのは

○ チャールズ・スミス、大代数 ~~書~~ ^{註(1)}

(これはやさしい代数の本です。)(上図参照)

○ バーンサイドとハントン、方程式論 (この本の後半はたいへんお世話になりました。)

○ ショウグネー、初等幾何学 (~~並流な~~ 教科書でした)
価値ある

注



二の近くのページの最上部凸版入りです
訂付表の通りにくらべて下さい。

出版入る行
クニ 13
ヨコ 2段

組の2の2

1行中

本又

6号 = "4"

4 A - ルズ 〇 スミス の 代 数

二小は 1902年三省堂発行の翻刻

6 P 書で 1913年(仙台)中三臨時教

員養成所にあつて、小倉が代数の

講義に使用したテキストなのです

小倉自身の書入れをのらんなさ

D ハンケル 円錐曲線

(これは物理学校の教科書に使^{われ}ました)

D アルティン 立体解析幾何学

(これも初めの^{物理}ほうが学校の教科書でした)

D ウィリアムソン 微分学 PP

ウィリアムソン、積分学。

口 ますが、~~この~~よいかものを買って集めて、やさしいのから

少しずつ読み出した^{のですが}~~の~~考えてみますと、田村書

店という出版社は、当時の数学や物理^{なせの}~~を~~学生に対

して、~~非~~^{じつ}非常にいい仕事をやってくれたものだと、今

日でも私は感謝しております。それから以後何十年^{水の向}田

村の^が翻刻書~~本~~とくち参考に^たたか~~し~~れませ~~ん~~。

~~その全角リリ~~

Dとこゝで物理学校に在学中、~~1902~~1902年から

1905年までの3年間に^{私は}~~とちらかと~~数学よりは

物理と化学に興味をも^すていた^{これ}の~~で~~在学中新

第1巻 第2巻

刊の ^{うさ} 数学書の ~~うさ~~ 有益だ ^た た ^{おもしろ} おもしろかったと思 ^{される} 思い出

もの ^か は ^{少し} ~~少し~~ あります ^{第1} ~~第1~~ はデンマークのペテルゼン

の「幾何学 ~~二~~ 作図問題解法」という本 ~~書~~ ~~これは~~ ~~昔~~ ~~の~~

高等工業学校の教授 ~~が~~ また物理学校 ^で ~~お~~ ~~り~~ ~~私~~ ~~の~~

恩師 ~~は~~ ~~三~~ ~~守~~ ~~守~~ ^{さん} 先生 ^が ~~が~~ 訳 ^{した} したものです ^{幾何学} 幾何学の歴史

原本なのに

名の残っているほどの~~本~~ (さらに三守) 栖先生の人柄を思わせるような

淡々たる文章で~~ま~~ ~~非常~~ しいかなものと思います

今日の高等学校^や~~ある~~は中学の先生たちがお読みにな

ても決して古びたなといはいわれないよう^{古典} ~~な~~ ~~本~~ だと ~~見~~ 考え

~~ま~~ ます。次には高木貞治先生の『新式算術講義』です

これは1904年、高木先生が29歳^お若いころの先生を
^およそ ^{ほん}ほんの
 (の)はせら、新しい数学の光で見た、日本には比類のな
 い算術の本でした、それから5年ほど^のあと^私私^が高木先生
 の同僚吉江琢兎先生^{はじめ}の~~自宅に私が初めて吉江先生~~におた
 おねした時~~分~~、吉江先生は高木先生~~の~~この本を激賞し

ついでにおいた[△]
ておられました[△] ~~星野~~ 矢野健太郎^{さん}が2月5日の[△]週刊

読書人[△]の中で[△]高木先生のこの本も賛美なさ[△]てい~~る~~^{ましたが、}私^も

きわめて同感です[△] ~~その~~ ^{も一つ[△]}本は坂井英太郎^{先生}の[△]「高等教

育微分積分学[△]」という~~本です~~[△] ~~これは~~そのころの私には

~~非常~~に新鮮に見えた本でした[△] ~~と~~考えてみますと[△]日本
きわめて

に微積分が輸入された初期におきましては、微分とか微

分係数とか^関函数の極限とか、~~そういう概念を~~

^不きわめて粗^雑なものでした。~~それ~~日本で最初の微

積分の^{單行}本は、1880年の福田半の「筆算微積入門」とい

~~本~~ですが、これは誤りに満ちた本です。その翌~~年~~1881

年に訳されたイギリスのトドハンターの長沢龜之助訳の

「^学微分」(「^{積分学}その翌年の^訳積分」) ~~これは~~ は微分係数 [△] あり

なわけ微分高を求めるとに [△] たが極限によ [△] るのみ与え

られる [△] 無限小の量の概念 ~~トドハンター~~ [△] あり

は付録のよいな巻末 ~~追いや~~ [△] 追いや ~~て~~ [△] いるので

すゝとこれが、おもにこのこと、~~1883年~~ 1883年に

アメリカのケーリー^カの「微積分」、岡本則録^{によつて}が訳した

てい

~~はあ~~ますが、これはフランスのラグランジュ[△]の~~本~~

「解析函数論」の影響を受けたもので、^{そこは}微分商の定義は

ありますけれども、それは極限概念をも退け、無限小の

は雑誌のことです。以前から、
もう一つ、~~物理学校に在学中にこのようなことがあ~~

~~科学記事の多い雑誌と~~いいますと、^{例えりも}「東洋学芸雑誌」

とこのうのがあります(たが) ^{しかし}「数学については ~~それよりも~~「東

京物理学校雑誌」のほうか読みかいかあ ^たと思います。

物理学校在学中
私は ~~「東京物理学校雑誌」~~に載 ^た論文によります

て、早く林鶴一先生と刈屋他人次郎先生と三上義夫先生

などの諸

の名前を知りました。先生たちの若い初期

の仕事の一面を知ることができたのです。

15行目

6524
2

物理学校卒業後の
7年半ばかり私は数学からほとんど遠ざか

~~はじめる~~ はじめる)
 てしまいました。 ~~なにかと申しますと、私はずれか~~

年 ~~は~~ は東京大学 ^の 化学 ^{選科} にいたの ^{読んだ} ですが、その間に ~~た~~

ア ~~ロ~~ というイギリスの化学者の「化学及び物理の学生の

ための高等数学」 ~~本~~ は相当た ^{りま} めにな ~~た~~ ざい

た。 ^う しかし東大において私が非常に啓発されたことは

化学の図書室には、化学の諸分科 ~~の~~ 専門的 ~~な~~ 単行

本 ~~は~~ ~~かなり~~ 意外に ~~少ない~~ ~~ので~~、それに及 ~~び~~し

て専門の化学雑誌のバ ~~ッ~~ ナンバーの多い ~~ことでした~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ^{じつに)}

~~れたのであります~~ ^{そして} 少年時代 ^{多年} から ~~い~~ 尊敬の念を拂 ~~い~~ 添 ~~え~~ 参 ~~り~~

ました ~~フ~~ ~~レ~~ ~~ト~~ ~~ホ~~ ~~フ~~ ~~ハ~~ ~~オ~~ ~~ス~~ ~~ト~~ ~~ワ~~ ~~ル~~ ~~ド~~ ~~ハ~~ ~~ア~~ ~~ル~~ ~~レ~~ ~~ニ~~ ~~ウ~~ ~~ス~~

口して、²これからいよいよ私が何人といに数学の研究に

志し~~た~~ ^{時期}に入ります。それは1907年であり~~ま~~

~~す~~、林鶴一先生の指導を受けながら、大部分は御里にお

り^りまして、~~自分の~~家の職業の、合同を々に、~~相当に余裕があ~~

~~りました~~、^{たので、}時間割を作^つて勉強を始め~~ました~~ ^{初めは}ます

田村 ~~書~~ の 翻刻 書 を できる だけ 丁寧 に 読んで みる と
 と から 出版 し ~~、~~。 そう いう 翻刻 書 を かつ と 読み 終わ り へ て
 から ~~、~~ ~~いよいよ~~ ~~今度~~ 外国 の 原書 を ~~直接~~ ~~して~~ ^{丸巻に注文} ~~注文~~
 み よう と ~~う~~ ~~こと~~ ~~を~~ ~~考~~ ~~え~~ ~~る~~ ~~お~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~な~~ ~~い~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~、 前回
 に 申し ました ように、 私は 1911 年 ~~に~~
~~私は 1911 年に前に~~ 申し ました 仙台 に行 く こと にな ~~る~~

たのですか、~~それ~~までの4年間に~~い~~^{んち}~~く~~ 数学書を読ん

だか~~に~~^{につ}~~いて~~ ~~と~~も~~ま~~ ~~と~~お話し~~を~~^{いたし} ~~ま~~しよう。

○ ~~ま~~^{では} ~~あ~~日本語~~に~~ ~~そ~~のころ ~~い~~^{んち}~~く~~ ~~あ~~ったか~~と~~

~~ま~~ ~~あ~~まり参考になる~~の~~ ~~か~~ ~~な~~か~~た~~ ~~た~~だおもしろ

いことに~~は~~、**「数学叢書」** ~~と~~いう~~一~~^名 ~~つ~~のシリーズ~~を~~^{として} ~~を~~出版

されたものが ~~そのころからそのころ~~ 出て ^来 ~~参~~ りました。

それは、林鶴一先生が大倉書店から出された「数学叢書」

です。この中にある「公算論」^や「微積分^学の基礎」

^{など}
~~から~~ は私にたいふ参考になりました。そのほ

かに大日本図書からも「数学叢書」が ^{その中で} 出まして、京都の

吉川実夫先生の「近世総合幾何学」が^好評判でした。^{時期が}(少

しおくれ^{まちが}大正の初めに出版した吉川先生の「函数論」は^{この本の15字(欠)}が

~~時期は少しおくれますが~~、大へん^ま評判で、これが日本に

おける最初の高等数学の本いやないかと批評する人さえ

あります。

○とこの^で~~は~~ ~~このころにな~~ていよいよ専門数学~~を~~研究

●への出発は^に ~~志すは~~ ^あた ^へて気がついた ~~は~~ ~~は~~ ~~自分~~が物理学

校で学んだ数学 ~~という~~ ^{一休}は ^格 ^の ^の ~~の~~ ~~の~~

~~は~~ ^{した} ~~か~~ ^と ^い ^う ^こ ^と ^で ~~あり~~ ~~ます~~。物理学校の数学は [、] 当時の

高等師範や ~~ある~~ ~~国~~ ~~の~~ ~~高~~ ~~等~~ ~~学~~ ~~校~~ ^の ^時 ^向 ^数 ^の ^多 ^い ^ク ^ラ ^ス

のものと程度も内容もあまり大差はないと思います

ただ物理学校はいわゆるフランス流の~~教科書~~ ^{学風なので} 微分の積

初歩は高等代数で少し ~~は~~ ^{後に} ~~微積分をも~~ _{(体系的)も} 1

少しは ^{少しは} 度繰り返して微分方程式にも入っていた。また解析幾

何をやる前に近世幾何を学びましたか ^{DD} ~~は~~ 先生の前 _{それは}

ことに無理数の概念 ~~と~~ 極限 ~~と~~ 収斂 ~~と~~ 発散 ~~と~~

~~る~~ 厳格な講義 ^{公理} に関係 ~~ある~~ ^{事柄} ~~こと~~ ^{DD} こと ~~は~~

~~飛ぶ~~ ^{飛ばす} ようにして
ほとんどのやが ~~は~~ 済んだので ~~す~~ [。] もちろん物理 ~~屋~~ ^の 技

術 ~~者~~ ^の ~~こと~~ 専門家になるためには ~~は~~ [。] ~~さ~~ [。] ~~い~~ [。] ~~う~~ [。] ~~も~~ [。] ~~も~~ [。] ~~よ~~

か [。] ~~た~~ [。] ~~か~~ [。] ~~ゆ~~ [。] ~~し~~ [。] ~~水~~ [。] ~~ま~~ [。] ~~せ~~ [。] ~~ん~~ [。] ~~が~~ [。] ~~私~~ [。] ~~の~~ [。] ~~よ~~ [。] ~~う~~ [。] ~~に~~ [。] ~~と~~ [。] ~~も~~ [。] ~~か~~ [。] ~~く~~ [。] ~~専門的~~ [。] ~~な~~



数学をやろうという人間^には、これではいけなかった。

✓の難関を突破する ~~事~~、ことが私の前に横たわ^つた大

きな問題であ^つたので ^{した} ~~あります。それとありますから、~~

〇をこて^へ ● 8P全南コロル

私は ~~ま~~自分の読める英語とドイツ語の本 ^{〇〇} ~~を~~

~~読~~イタリア語などは今日でも ~~を~~読めません^し、フ

フランス語は後に読めるようになりましたか^{DD}とにかく英

独の本も ~~も~~ ^{精読する} ~~こと~~ ^{から} 出発したのです。

まず、^{数論と代数学} ~~の数論~~ ^{の数論は} ~~の数論~~ ^{ディリクレーの} 数

^{講義} ~~論~~ ^{ディリキント} ~~の~~ ^{編集した} ~~著者の~~ ^を ~~の~~ 初めの

ほう ~~の~~ ^{3分の1ばかりを} ~~読みました。~~ ~~の~~ ^{「代数学講義」} ~~の~~ ~~本~~

代数学 ~~は~~ ^の ~~の~~ ¹⁵⁰⁵

~~フランス文で読めなかったために、ドイツの訳書で読んだ~~

~~ためにあまりおもしろい本とは思われなかった。あとで~~

~~フランス語で読んで非常に驚いたのです。もはや私は~~

~~ドイツ語の~~ ウェーバーの「代数学」^学の第1巻で勉強しました

むしろ少くも ~~みませんでした~~ → ほかに前には
第2巻は少ししか進 ~~めなかった。むしろ少くも~~

げたネーターの置換論とセレーの代数学(ドイツ語)を
と23と23流 **置**置 人が程交です

講義

とてろてろフランス語が

学みも読んで、~~非常~~感服した。したので ~~あきら~~ます。それから ~~英~~

たいてい

フランスの数学書

数論では ~~ユ~~レージの「~~ユ~~数論」(これはもとはドイツ語で

ユリ

すけれとい、英訳が丸善にあつたので、それを買

ついで

梅田

ユリ

ました) ~~ユ~~レージの「~~ユ~~数論」(これは

ドイツ語で) ~~読ん~~ました。 ~~それ~~から 英文のハークネスとモ

ーレーの共著の「解析函数論」^{DD} ~~を~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~に~~ ~~ん~~ ~~な~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~を~~ ~~読~~ ~~み~~ ~~ま~~
 した。 ~~フ~~ ~~ア~~ ~~ー~~ ~~サ~~ ~~イ~~ ~~ス~~ の「函数論」は ~~非常に~~ 大部を本でし
 たが、 ~~非常に~~ ~~長い~~ ところを ~~かなり~~ 省きながら、長い間かかって一
 通り読みました。

(イタリヤの)
 □ それから幾何では、~~グ~~ ~~レ~~ ~~モ~~ ~~ナ~~ の「射影幾何学」を英訳

日本書局

「イギリスの」
 で読みました。 ~~それから~~ サーモンの ~~幾何学~~ ~~のイギリス~~
 (丹鉛曲線 ~~の~~ のほかの)
~~この~~ 幾何学書は本国で絶版というので、注文して参
 りませぬので、仕方なしに「高次平面曲線論」と「立体
 幾何学」のふっただけをドイツ訳で読んだのですか、なか
 なか難解でした。それからイタリアのピアンキの「微分

幾何”をドイツ訳で読みましたが、このヒアンキの書物

深い

は私にとりて ~~思~~ 思い出の本になりました。

以上は、いわば教科書のついでに読んだ書物である。

(気分轉換のついでに読んでみた)

← そのほかに、ときどき長引いたりなんかにしたような本

本があります。ヒルベルトの「幾何学の基礎」(なぜは、

(再版 1903)

には、たとえばハーティの「純粹数学」という ~~本~~

その一つです。また

すが、~~これなどは~~ 1909年の新刊本 ~~を~~ おもしろ ~~い本が~~

あつたので、^{早速}
~~ものを~~ → 物理学校雑誌に~~簡単に~~紹介したところ

2、3日たつて、国枝先生^{から}
~~お会いし、先生の本~~

頂いて ^{ありがとうございます} といわれ、
を紹介して ~~非常に~~よかった ~~感謝~~ された ^{記憶} ありがとうございます

す。 ~~まあそんな年代のせいの中ゆる時間割風にしてヨッヨッ~~

と勉強した ~~のであります。~~

→

以上の
ほかにも^の番外として読んだ~~本~~があります。

全部読み直したのは
お中1にドイツのクラインの~~本~~ですが、~~お中~~次の3つ

です。
~~読みました~~ 「高等幾何学~~講義~~」 「幾何学における微積
階梯」 (上四参照)

分の応用[」] 「高い立場から見た初等数学」[」] ~~特~~

に~~本~~ 「高等幾何学講義」[」] ~~におきました~~ 謄写版の~~本~~

読み直し
はいいえ

その中には、平易な説明の巧み左
一のリーの本ですが、~~これはみなシェファーストという内~~

内) シェファーストの手~~で~~で
人によ~~って~~ドイツ語で書かれ~~た~~た~~は~~シェファースト

~~この数学者は物を平易に書きこなすことが非常に巧みな~~

でいたから、~~リー~~の「微分方程式論」~~も~~「連続変形群

論」~~でも~~「切触変形論」~~も~~大へん親しい。読むこと
~~が~~がありた~~た~~の~~は~~で、~~私~~は

が、でき^{たのび}ました。こゝいうふうにも、むしろ番外のように

読^出みした本のほうからかえ^てて大きな刺激を受ける

よくな^り~~った~~。特に幾何学的直観という面におけ

る^{から}クラインとリーの魅力^は~~は~~私の~~数学的~~生涯に

~~大きな~~大きな影響^{受け}を与^たたのであります。

また、
~~また~~ 学向を^する^に雑誌が必要だといふことは先に

申しましたか、^{こと}何しろ費用が^{細里}かかるので~~田舎~~におりま

してはそれもでき^ず~~ません~~て新しい外国の数学雑誌

にはほとんどの心を向けずか^のた^{です}ければ~~い~~そのころ~~は~~

~~先~~三上義夫^{さん}から^かときどきドイツの雑誌などに~~書~~

載^り

論文の
● 貴数学史に関する別刷を送[△]てこられまして[△]これに

は
● 非常に啓発されました[△]もう一つ私を啓発してくれた

ものは[△]ドイツの数学●百科辞典『エントクロポテ[△]○

テ[△]ア○マテマテ[△]イ[△]シ[△]ン○ヴ[△]イ[△]センシ[△]フテン[△]』[△]こ
でした[△]

に[△]よ[△]り
れは私は見聞を広めた上[△]に~~大~~大きな影響も与えられた[△]
受[△]

ましたので、独学のようにして勉強^{を始めた}た私はこのエッセ

クロペジ^{自分の}を先生とも考えていた^{時期}がありました。

1977 >

1924:

← 3

のように勉強を始めた
D として私は東北大学の助手とな^りて、1911年に仙

台に参^りま^{した}。^を専門^に数学書のほかに^に数学^を

数学教室には

のバクナナーの
雑誌をたくさん多いたに非常に驚かされたので

聞いてみると東北大学はこれまでの東京大学や京

都大学よりむしろはるかに数学ばかりではなして物理でも化

学も本が多いのだという話なんです。そういうわけが

ということも直きます。総長の沢柳先生

- 2 -

ら ^せ た ~~の~~ ~~で~~ ~~ま~~ ^{向うでは} ~~し~~ ~~か~~ ~~も~~ ~~い~~ ~~わ~~ ~~ゆ~~ ~~る~~ 日本 ^の 帝国大学 ^の ~~と~~ ~~う~~ ~~な~~ ~~り~~ ~~な~~ ~~り~~

^{何の} ~~向~~ ~~こ~~ ~~う~~ ~~の~~ ~~古~~ ~~本~~ ~~屋~~ ~~で~~ ~~も~~ ~~い~~ ~~な~~ ~~心~~ ~~配~~ ~~す~~ ~~る~~ ~~こ~~ ~~と~~ ~~を~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~ど~~ ~~ん~~ ~~ど~~ ~~ん~~ ~~＝~~

送 ^て きた ^の ~~だ~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ^{ことです} ~~話~~ ~~が~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~。 ~~そ~~ ~~の~~ ~~ほ~~ ~~か~~ ~~り~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~あ~~

り ~~ま~~ ~~せ~~ ~~ん~~ ^私 は ~~数~~ ~~学~~ ~~教~~ ~~室~~ ~~の~~ ~~助~~ ~~手~~ ~~の~~ ~~ほ~~ ~~か~~ ~~に~~ ^{図書館} ~~の~~ ^{会計}

官 ^吏 ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~に~~ ~~さ~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~ ^か ~~ら~~ ~~い~~ ~~の~~ ~~た~~ ~~め~~ ~~に~~ ~~私~~ ~~は~~ ~~、~~ ~~一~~ ~~体~~

~~専門書にとくに雑誌のバックナンバーをさがしにくらい~~

なとんつて

~~の値段が買えるかどうか、そういうことに対してそのころ~~

いろい

~~くらいいろいろ調べることもでき~~

まよようになると、それが
私の将来に對して

~~あとで自分のいろいろな運営をかんがゆる時分は相当の効~~

果があつたと思ひます

-2

~~大学も~~ ^{など} ~~たんに~~ ~~たんに~~ ~~新しく~~ ~~な~~ ~~る~~ ~~が~~ ~~、~~ ~~非常~~ ~~な~~ ~~進歩~~ ~~を~~ ~~遂~~ ~~げ~~ ~~て~~ ~~来~~ ~~た~~ ~~し~~ ~~て~~

新しい
多くの学者たちが生まれてきた ^{DD 25} ~~いう~~ ~~こと~~ ~~も~~ ~~この~~ ~~前~~ ~~申~~ ~~し~~ ~~て~~
の通りであります。 ~~は~~ ~~既~~ ~~に~~ ~~ご~~ ~~承~~ ~~知~~

~~また~~

● 8P 全角カマ

□ ~~を~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~考~~ ~~え~~ ~~て~~ ~~み~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~、~~ ~~大~~ ~~正~~ ~~の~~ ~~後~~ ~~期~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~昭~~ ~~和~~

の初頭 ^{から} ~~に~~ ~~か~~ ~~け~~ ~~て~~ ~~は~~ ~~、~~ ~~第~~ ~~一~~ ~~次~~ ~~世~~ ~~界~~ ~~大~~ ~~戦~~ ~~の~~ ~~終~~ ~~り~~ ~~こ~~ ~~ろ~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~る~~

~~戦~~の直後^{に当る時期}でありまして、その時分は^{DD}あとで

~~譯~~申しますように^{DD}日本における学問^ヤ思想の解

放の時期で^{分たりのです}あ~~りま~~た。数学においてはそれは日本に

おける数学^{お上}が~~数学教育の~~発展期で~~あ~~した^{すなわち、たたい}。大学に

おける数学^ヤ研究~~の~~進展~~と~~人材の発育~~と~~

~~これはこの前申しましたか、それ~~ばかりではな~~い~~ ^く [△] や

専門的を数学 ~~を~~ (あるいは高等数学)の普及と発達の時期

でもあったのです [△] [└]

月刊に雑誌 ^{について} ~~この~~申しますと [△] ^{これ} ~~まで~~ ● 数学の論文

を載せる ~~専~~ ~~雑誌~~ ~~機関~~ は [△] 各大学の [△] 「紀要」のほかに [△] は [△]

(大正7年日本数学物理学会と名称)

東京数学物理学会(2)の「記事」と「東北数学雑誌」~~の~~の2

つしかをかと23つたのです。~~雑誌~~が大正の末期1924年(大正13)に学

術研究会議というものができまして、そこから「数学輯

報」といふのを出しました。²の「数学輯報」~~と~~

数学と物理にまたがる

①は、~~東京~~数学物理学会の「記事」と違い、~~東北数~~「東北数

+1

● ~~これ~~
~~これ~~

で書^たいた ~~日本数学物理学会誌~~ ~~が~~ 創刊され

まし^た ~~こ~~ ~~は~~ 西洋の ~~新~~ ~~研究論文~~ の内

容を ~~日本語~~ ~~に~~ ~~転~~ ~~写~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~説~~ ~~明~~ ~~を~~ ~~す~~ ~~る~~ ~~に~~ ~~な~~ ~~ら~~ ~~せ~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~こ~~

~~この~~ ~~雑誌~~ ~~が~~ ~~本~~ ~~の~~ ~~目~~ ~~的~~ ~~を~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~っ~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~実~~ ~~際~~ ~~数~~ ~~学~~ ~~物~~ ~~理~~ ~~学~~ ~~会~~

で ~~も~~ ~~大~~ ~~正~~ ~~十~~ ~~三~~ ~~年~~ ~~以~~ ~~後~~ ~~昭~~ ~~和~~ ~~二~~ ~~三~~ ~~年~~ ~~ま~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~新~~ ~~し~~ ~~い~~ ~~研~~ ~~究~~

○○○○⑤○○○○⑩○○○○⑮○○○○⑳○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

本文組込み表中文可65
 ↑イロオナ

6524

数学物理学会の会員数

1905 (明治 38)	224
1910 (明治 43)	319
1915 (大正 4)	391
1920 (大正 9)	528
1925 (大正 14)	705
1930 (昭和 5)	1022
1935 (昭和 10)	1277

6P

→ 10

者の数も発表数も増加して ²⁰ ~~ま~~ 昭和7 ^(1932~33) 8年

の ^{それか} ~~増加~~ 目立 ^て きた ^つ まり数学

専門

の学生の数も増加 ^し ~~論文~~ の増加 ^し ~~して~~

雑誌 ^の 増加する ^こ う ^い う ^ふ う ^に ^そ ろ ^つ て 発展してきた
三拍子

のであります [△]

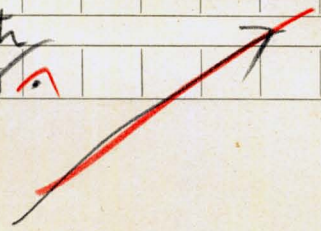
これは ^は ~~数学叢書~~ のこと ^で ~~な~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~ ~~。~~ ~~数学叢書~~ と ~~い~~ ~~っ~~ ~~た~~ ~~。~~
~~これは~~

~~これは~~ ~~日本~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~ま~~ ~~た~~ ~~は~~ 林鶴一先生の「数学叢書」が長い間

~~知ら~~ ~~れ~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~、 ^{多く} 最も行なわれたので ^{せい} ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~ ~~。~~ ~~これは~~

全部で 29 冊出 ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~ ~~。~~ 1930 年 (昭和 5 年) まで続

いたので ^し ~~。~~ ~~。~~



-1

たこで少し脱線しますが、林先生は昭和4年に大学の

教授を辞されたのです。まだ定年も来ないのに辞された

~~のです。それ~~ ^{その時の}先生自身からこういうことを私聞きました
からのお手紙にゆりますと、

自分は東北大学に赴任したのが明治44年4月4

日であつた。だから昭和4年4月4日に辞表を出した。

← といふのであ

~~これは林先生の非常に~~ ~~エッセイ~~ ~~のあるところ~~ ~~で、林先生~~

~~といふ方は~~ ~~さういふ先生~~ ~~です~~ ~~。~~ ~~その後~~ ~~林先生は~~

~~普通~~ ~~の数学~~ ~~の~~ ~~研究~~ ~~とか~~ ~~、~~ ~~さういふ~~ ~~もの~~ ~~を~~ ~~お~~ ~~や~~ ~~め~~ ~~た~~ ~~ま~~ ~~り~~

老後の精力を

~~ま~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~も~~ ~~は~~ ~~ら~~ ~~和~~ ~~算~~ ~~の~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~に~~ ~~ま~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~こ~~ ~~れ~~ ~~は~~ ~~ま~~ ~~た~~

注がれたのであ

~~お~~ ~~し~~ ~~上~~ ~~げ~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~て~~

後

。

一 二

書店 ^{「高等」}

□それから岩波^{「高等」}にも「数学叢書」の企てがあつて、これは私

~~も関係したことで、すから中へ上げますから~~ 私が外国から

の春に ^{藤原、掛谷、諸先生と共に}

帰つた1922年(大正11年) ~~計画が立てられ~~ ^{に加わ}

~~すいぶん~~ ^{すいぶん} 大事を取つたので

たのですが、~~2年を書いた人~~ 結局昭

^{5月}

和5年ころから実行され、~~掛谷宗一~~ 先生の「一般函数論」

1
29天

ヤ ~~正田健次郎~~ ^{さんの} 「抽象代数学」 ~~昭和7年~~ ~~こういふ~~ ~~山~~
●左と●が出版されたよ

んになりました。 ~~さう~~ 一々申しませんが、 ~~考~~ えてみま方と、

~~に~~して 数学叢書 ~~が~~ ~~だ~~ ~~い~~ ~~じ~~ ~~り~~ ~~っ~~ ~~は~~ ~~な~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~が~~ ~~何~~ ~~の~~ ~~何~~ ~~の~~ ~~あ~~ ~~る~~

林先生の →

~~参~~りました。 ~~これ~~も ~~今~~までには ~~比~~類 ~~を~~見 ~~な~~い ~~か~~、 ~~林~~先生

~~高等~~ ~~算~~学 ~~相~~半 ~~は~~ 「内容」

「数学叢書」 ~~と~~ ~~い~~い ~~の~~ ~~は~~ ~~「~~ ~~実~~ ~~際~~ ~~申~~ ~~し~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~ま~~ ~~あ~~ ~~玉~~ ~~石~~ ~~混~~ ~~淆~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~っ~~ ~~た~~ ~~」~~

~~い~~ ~~ま~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~の~~ ~~点~~ ~~に~~ ~~お~~ ~~い~~ ~~て~~ ~~欠~~ ~~点~~ ~~も~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~」~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~ ~~「~~ ~~ま~~ ~~あ~~ ~~三~~ ~~此~~

最 ~~の~~ ~~印~~ ~~期~~

的
 学傾向でしたが、^はそれ昭和時代にな~~ると~~と破られてし

また、~~大正の末期から、ことに昭和年代に~~ととんて

~~く出てきました。~~たとえば園正造^{さん}の『群論』(昭和3年)

『方程式論』(昭和4年)、藤原松三郎先生の『代数学』I、

II、~~これとこれ~~(昭和3年、4年)、高木貞治先生の『代

数学講義”(昭和5年) ^{DO} ~~この~~ ^{單行書} ~~名~~ ~~も~~ が続々と出て参

ります。

□ ~~←~~ 考えてみ ^封 ~~と~~ さきに ~~封~~ 申しました田村書

店の翻刻から ^封 ~~ここ~~ ~~半~~ ~~で~~ ~~に~~ 25年 から 30年 か ~~か~~ ~~た~~ ^う ~~た~~ ^{なして} 田

村の翻刻と大体同じ水準 ^封 ~~い~~ ~~や~~ ~~物~~ ~~に~~ ~~よ~~ ~~っ~~ ~~て~~ は田村翻刻 ●

坂井英太郎先生~~の~~ 両 国枝元治先生^の 監修 の下に 刊行されて

成功し 同い出版社から 同書
~~は~~ したが ~~い~~ ま ~~く~~ たものですから その翌年に

は 「初等数学講座」 ~~も~~ ~~い~~ ま ~~した~~ 続いて昭和5年^に (1930年)

は 「続高等数学講座」 ~~も~~ ~~い~~ ま ~~した~~ ^に ~~こ~~ ~~の~~ ~~よ~~ う ~~に~~ ^に

~~は~~ 初等^的なものから相当高級な大学程度の講義まで

結果と短い年月の間、
現われるようになったので、^{した}~~あります~~ ^{後に}~~あ~~国枝先生の

業績も ~~ある~~ たたえた ^{ある人の言葉に、} ~~この言葉があります。~~

それまで ● 日本語の本で ^は 十分に勉強することが容易で

なか ^た の ^か 「今や日本の数学研究は一冊の原書を読

むこともしないうで ^た 数学の ^た 蘊奥も極め得ることに ^た ^た

これは実に偉大な功績である。 当時は林博士の『数学叢書』
 くらいしかなく、^{〇〇}とかく販路を^{〇〇}しかるべく予想され
 たこの種の著作を大成して日本の学界を飛躍せしめた共
~~さいの~~
 立社の功績は非常に大きい。 ~~これは何と感激した先生があ
 と感激したものがあ~~
 りますが、~~同感であります。~~

大した誇張ではあるまいと思えます。

日本の数学史

しかしこの ~~さらなる進歩~~ 1930年に ~~は~~ ^{さらに} ~~あつた~~ 岩波講座の「数

~~学~~ ^{たの} ~~が~~ ~~出~~ ~~た~~。これは当時 ~~の~~ ~~最~~ ~~高~~ ~~水~~ ~~準~~ に達したため ^放 ~~された~~ ~~ので~~ ~~だ~~。

ので ^お ~~そらく~~ ~~これは西洋に比べても遜色のないものと~~ ~~き~~ ~~わ~~ ~~め~~ ~~て~~ ~~優~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~お~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~一~~ ~~方~~ ~~カ~~

~~な~~ ~~り~~ ~~よ~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~う~~ ~~と~~ ~~思~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~4~~ ~~。~~ 岩波茂雄氏 ^は ~~を~~ ~~も~~

^い ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~4~~ ~~。~~ ^た ~~い~~ ~~や~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~。~~ 岩波講座 ^は ~~。~~ 「数
^い ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~4~~ ~~。~~ ^た ~~い~~ ~~や~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~。~~ 岩波講座 ^は ~~。~~ 「数
^い ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~4~~ ~~。~~ ^た ~~い~~ ~~や~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~。~~ 岩波講座 ^は ~~。~~ 「数
^い ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~そ~~ ~~の~~ ~~か~~ ~~ら~~ ~~4~~ ~~。~~ ^た ~~い~~ ~~や~~ ~~う~~ ~~に~~ ~~。~~ 岩波講座 ^は ~~。~~ 「数

の各項目、^{自分ひとり} ~~自分ひとり~~ ^{じやない} ~~そのように~~
学” ~~は~~ ^は 執筆者 ^{しか} ~~わか~~ ^ら ~~ない~~ ^{のだ} ~~だ~~ ^{思われる}
執筆者も ~~も~~ ^も ~~た~~ ^も ~~知~~ ^れ ~~ませ~~ ^ん

口 ^オ ~~オ~~ ^に ~~あ~~ ^げ ~~た~~ ^い ~~の~~ ^は ~~は~~ ^は 数学教育改造運動の発展で ~~お~~

オ ^オ ~~オ~~ ^前 ~~に~~ ^申 ~~し~~ ^ま ~~し~~ ^た ^{欧米} ~~の~~ ^{ペリー} ~~の~~ ^{クライン} ~~等~~

大正
の改造思潮は ^{昭和} ~~昭和~~ ^の ~~の~~ ^{中期} ~~の~~ ^{ころ} ~~から~~ ^だ ~~ん~~ ^だ ~~ん~~ ^日 ~~本~~ ^に ~~も~~ ^入 ~~っ~~

て ^て ~~き~~ ^中 ~~一~~ ^次 ~~大~~ ^戦 (1914 ~ 1918) の終り

ころから ~~だいた~~ 日本にも根を張らうとしてい ~~たので~~

~~あります~~ 年代からいえば 講座 といよりも → 教育運動

のほうか 早か たので す 表面に現われた形でいいます

まず 1917年(大正6年) ころから い 出ゆる新教育というもの

か 日本あるの小学校に ~~から~~ 盛んにな つ て参りました ~~た~~

~~この新教育と結びつ~~ ^{として}

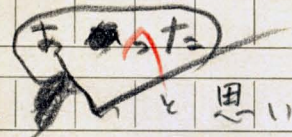
いて ~~→~~ 小学校における算数^{中が日}教育も改造^{さし}しなければ

ならぬと~~いわれて~~唱えられた^{のです} 1919年(大正8年)

一方、中等学校の方面では ~~日本(初)~~ 日本中等教育数学会~~と~~の が成り立

~~た~~ ^た ^た その機関雑誌も出ることになりました。これは文

かといえは~~は~~文部省によりかか^{ていた}~~た~~ところが

~~は~~  と思います[△]ところが、大正も~~は~~進む

~~は~~ ^は運動[△]も[△]と活発にな[△]
につれて[△]

で参りまして[△] ~~は~~ 小学校の先生[△] 中学校の先生の向
から[△] 数学教育に~~は~~ ついて言及する著書[○]の論文が発表され[△]

~~は~~ 私に「数学教育の根本問題」(1924年)[△] ~~著書~~ ^{著書}よ

41

を作~~りました~~て、~~「~~受験界に乗り出したのである。(か

その後藤森君は昭和4年に~~なりました~~^{ると}大学の^{の数学}開放と
見られる

~~いような~~「日土大学」というものも起こし

~~ました~~昭和11年には「高数研究」という

~~非常に~~高級な~~雑誌~~雑誌が~~出~~^{刊行}るようになった。藤
相当

森君の業績を^{批評}批判する。●には、ただ受験~~面~~という~~面~~面から

~~見~~見はかりでな~~く~~く、^の数学学習に関する一種の方法論と

でも、~~い~~いのような見方から、もう一度再検討する必要がある

のではな~~い~~いかと私は思います。

● 8pの221c 中央

○ ~~た~~ただいままで申し上げてきました大正^の中期から、ある

いは後期から昭和初期に至る間に日本は社会的思想的に大きく動いてきたのです。また世界大戦が終わった

た。アインシュタイン改造社という雑誌社の招待で1922年(大正11年)に日本に迎えることか

で、それから昭和2年には改造社から「現

代「日本文学全集」が出版^て ~~された~~ ^{「日本」}の始^{めを} ~~めた~~

なし、同じ年

~~あります~~ 新潮社からは ~~出版された~~ 「世界文学全集」が

出版された。 ^{そして} ~~この~~ ^{昭和二年} ~~に~~ ^{「岩}

波文庫」といって他の形式^{の出版が} ~~で~~ ^{始ま} ~~った~~ ^{までおこな} ~~った~~

□ このように ~~して~~ ^{考察} ~~を~~ ^{大正後期から昭和初期} ~~から~~ ^な ~~ら~~ ^て ~~み~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~て~~

にかけては、日本における^{研究}数学~~教育~~の進展^{および}~~なる~~

数学教育の普及というような事柄は、ただそれ自身とし

て考^察る^のべき^はな^く~~ら~~、^中1次大戦後の思想界におけ

る学向[○]思想の解放という^{大きな現象の一環として}~~ようなことに関係して~~考えな

ければなら^{ない}~~ぬ~~現象であると思います。しかもそれ

~~1914年~~ ^終戦直後から始まった世界的な恐慌 ~~1929年~~

~~1931年~~ ~~1937年~~ ~~1941年~~ さらに ~~1941年~~ 満洲事変

(1931, 昭6) 以後の危機を目前にして、日本の数学・
数学教育の上の出現した解放運動であったのでした。

~~この解放運動の数学上の出現は~~ ~~数学教育の上の出現は~~

たのであります。()